

建築人

2025

2

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.728





建築人

2025.02 No.728

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「芦屋の家」2022年

第16回 建築人賞新人賞 受賞作品

設計：大庭徹建築計画

施工：ヴィーコ

撮影：笹倉洋平

芦屋市内に建つ小学生のお子さんを持つ家族のための住宅である。敷地内に前庭、玄関庭、中庭、奥庭、屋上庭の5つの庭を配置し、全ての窓から緑を楽しめる計画を行った。建物を道路から大きく後退させて生まれた前庭では、塀等を設けず道行く人と緑を共有できる場を創出し、街並みにも配慮している。

2 大阪浪漫

4 Gallery 建築作品紹介

「三井ガーデンホテル京都三条プレミア」

設計：竹中工務店

施工：竹中工務店

「千寿製薬福崎工場管理棟」

設計：昭和設計

施工：ヒューネット

「シエリア鞆本町・天理教師大分教会」

事業主：関電不動産開発

設計・監理：徳岡設計

マンション棟デザイン監修：空谷一級建築士事務所 空谷真一
施工：鍛冶田工務店

8 動静レポート

9 Topics

10 Information

12 News of Note

14 建築びとに訊く

18 記憶の建築

「全日本海員組合本部会館」1964年竣工 / 2024年改修
温かさ湛え新生した海員たちの活動拠点 / 松隈 洋

建築人 No.728 2025年2月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：田鍋 稔

委員長：松下典央（編集人代表）

編集人：武藤優哉 石上芳弘 荻窪伸彦 河崎太平

昇 勇 橋本頼幸 春岡須磨子

三谷勝章 村上栄司 山本恭史

事務局：辻本和人 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

令和7年2月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961

大阪浪漫

(1984年・源聖寺坂)

写真・文 喜多 章

1984年に高津の松屋町筋沿いにあったビルの屋上から生玉方面に向かって撮影したカット。正面の階段が上町台地に在る源聖寺坂で周囲は寺や墓地に囲まれ、台地の上にはホテル街や生國魂神社等があり当時の大阪らしい風景が漂っており、え〜〜感じやな〜〜と雰囲気を楽しむながら見惚れていた記憶が蘇る・・・



近代洋風建築の建ち並ぶ京都・三条高倉に建つホテル。奥行き深い敷地形状に“市中山居”の居心地でゲストをもてなすホテルを構想した。建物は中庭を囲む「ロの字」の箱を通り側と奥側にふたつ並べ、それぞれの1階共用部を、パブリックな「オモテ」と、ホテルゲストのためのプライベートな「オク」と位置づけた。「オモテ」から「オク」までシームレスに連続するホテルへのアプローチは豊かなシーンの変化を紡ぎ出し、ゲストに、その向こうに続くまだ見ぬ空間の“気配”を伝える。点在中庭はロビーやレストラン、プライベートバスなどの共用部や客室と庭屋一如の関係をつくり、静謐な内部空間に豊かな自然光や季節の移ろいを伝える。

所在地：京都市
用途：ホテル
開業：2024.07
構造規模：鉄筋コンクリート造
地下1階
地上5階
敷地面積：2,715.89㎡
建築面積：2,096.63㎡
延床面積：10,514.18㎡
写真：母倉知樹
横川雄一★



兵庫県福崎町に位置する千寿製薬福崎工場の50周年事業の一環として、食堂や事務所機能を持った新管理棟を建設する計画である。従業員からプロジェクト名称を募り決定した「Oasis プロジェクト」を踏まえ、新管理棟は、工場で働く従業員が安らぎと憩いを求めて集い交流が生まれる場となることを目指した。千寿製薬の5色のコーポレートカラーを、エントランスホール天井のファブリックやスリット窓枠に用いて、アピールできるデザインとした。食堂は、従業員の方々の多様な利用に対応できる座席配置とすると共に、コミュニケーションや発想が広がることを期待し、天井の照明は波紋が広がるイメージとした。

所在地：兵庫県神崎郡福崎町
用途：事務所
竣工：2024.09
構造規模：鉄骨造
1階建
敷地面積：36,861.14㎡
延床面積：745.71㎡
什器：コクヨ
写真：松村芳治



昭和25年に建てられた天理教飾大分教会の建替えに際し、定期借地権付分譲集合住宅と一棟建物とし、教会を低層に抑えたまま容積の余剰分を集合住宅高層部に上乘せすることで土地を有効活用した計画。教会と集合住宅は調和と独立性に配慮し、それぞれにふさわしい風格を感じさせつつ親しみのあるモダンなデザインとした。教会の神床は既存の神床で使われていた木材を伝統的な継ぎ工法で再利用し、過去の記憶と未来をつなぐ意匠とした。躯体の高断熱化や高効率設備機器の導入によるCO2排出量の削減により集合住宅部はZEH-M Orientedを取得し、レジリエンスの強化への取り組み等により、都心の快適で安心・安全、また持続可能な住まいと暮らしを提供している。(西田知生/徳岡設計)

所在地：大阪府大阪市
 用途：集合住宅、
 教会・寄宿舍
 竣工：2024.03(教会・寄宿舍)
 2024.05(集合住宅)
 構造規模：RC造
 地上18階
 敷地面積：1,187.38㎡
 建築面積：924.95㎡
 延床面積：9,542.15㎡
 写真：Prise

第67回

建築士会全国大会

おおさか 大会

Architecture to Social Design

67th Japan Federation of Architects and Building
Engineers Associations OSAKA Conventions

建築から
ソシアルデザイン

2025.9.19

グランキューブ大阪

530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

- 主催：公益社団法人日本建築士会連合会
- 共催：近畿建築士会協議会
- 主管：公益社団法人大阪府建築士会

動静レポート

会長動静

- 12/26 和泉市長面談、泉南市長面談、
建築相談委員会理事協議
- 1/29 健康・省エネ住宅国民会議面談
- 1/6 在阪建築 16 団体新年交礼会
- 1/7 日刊建設工業新聞社年賀交歓会
- 1/8 ひと部屋断熱耐震事業協議、大阪
府収用委員会新年会
- 1/9 健康・省エネ住宅国民会議面談
- 1/11 近畿建築士会協議会青年部会
- 1/13 総合資格学院合格祝賀会
- 1/14 大阪府収用委員会、富田林市長面
談、北河内地域幹事会
- 1/15 日本建築士会連合会正副会長会議
- 1/16 日本建築士会連合会理事会
- 1/17 高石市長面談
- 1/18 命を守るひと部屋シンポジウム(福岡・北九州)
- 1/20 環境省・国交省協議、日本建築士
会連合会・古谷会長協議
- 1/22 理事会
- 1/23 太子町長面談、大阪都市景観建築
賞大阪府景観賞表彰式
- 1/24 泉佐野市長面談、奈良県建築士会
新年大交歓会
- 1/25 命を守るひと部屋シンポジウム(栃木・宇都宮)
- 1/28 摂津市長面談

会長・役員による大阪府及び市町村訪問

◎ 12/26 和泉市・辻宏康市長と面談



左より/牧田専務理事、上田副会長、辻市長、岡本会長、
北條理事

◎ 12/26 泉南市・山本優真市長と面談



藤江理事、岡本会長、山本市長、上田副会長、牧田専務理事

◎ 1/14 富田林市・吉村善美市長と面談



横関万委員、牧田専務理事、吉村市長、岡本会長、
徳岡副会長、横関正委員

◎ 1/17 高石市・畑中政昭市長と面談



牧田専務理事、徳岡副会長、畑中市長、岡本会長、田代理事

◎ 1/23 太子町・田中祐二町長と面談



中北理事、牧田専務理事、岡本会長、田中町長

◎ 1/24 泉佐野市・千代松大耕市長と面談



牧田専務理事、徳岡副会長、千代松市長、岡本会長、杉本委員

◎ 1/28 摂津市・嶋野浩一朗市長と面談



濱田顧問、石貫副会長、嶋野市長、岡本会長、牧田専務理事

1月度 理事会報告

日時 1月22日(水) 16:00～18:00
場所 本会・東会議室
出席 理事 39/46名 監事 1/2名

(1) 入退会の承認

(人)	12月	入会	退会
正会員	2,169	5	8
準会員	28	0	0
特準会員	20	0	0
賛助会員	146	2	0
計	2,363	7	8

(2) 会計報告

(円)	12月計	累計
収入	11,511,962	110,791,307
支出	9,126,796	96,233,112
差引	2,385,166	14,558,195

上表の当期経常増減明細を承認しました。

(3) 令和7年度予算素案

各部門(委員会)より来年度の活動企画等をもとにした事業・行事の予算素案額が提示され、総計して約△94万円の収支差引額となった。公益法人として収支差引±0を目指して調整を図ることとした。

(4) 堺市木造住宅無料耐震診断事業の委託契約

昨年、堺市の契約内容見直しに伴い、契約意向確認のアンケート調査が実施され、本会は契約の意向有りとの回答を行った。その後、堺市と委託内容の確認等を行った結果、来年度の無料耐震診断の実施団体として契約を行うことを承認した。

(5) 建築士サポートセンターの実績

本年1月6日より開設した建築士サポートセンターの実績として、電話相談2件、面接相談の予約2件を報告した。

(6) おおさか大会の準備進捗

①「建築士」4月号へのおおさか大会の記事掲載にむけて、各担当者が原稿作成中であることを報告した。

②万博エクスカージョンでは、本会オリジナルの資料提供を検討中であることを報告した。

③全国まちづくり委員長会議をはじめ、他府県、他地域にて大会PRを行っていくことを報告した。

④大会の会場内のパネル展示については、A1サイズのデジタルサイネージを活用する予定であることを報告した。

「近畿学生住宅大賞」一審査会を終えて

日程：令和6年12月7日(土)
会場：大阪府建築健保会館
参加者：80名

未来の建築士である学生の住宅設計課題を対象としたコンテストである「近畿学生住宅大賞」の最終審査・表彰式が行われた。審査員は、阿曾実美・河合哲夫・島田陽・白須寛規・平塚桂の各氏。いずれも各分野の最先端で活躍される先生方だ。この賞の特徴は、他のデザインコンペと異なり、各大学・専門学校で学生達が取り組んだ「設計課題」を対象としているところにある。共通のテーマは、戸建て住宅から集合住宅まで、人の住まい方に着目したものであるが、各大学で求められるスキル、アイデア、評価基準も異なり、一堂に会すると、各大学の設計課題の特徴が見え隠れする。もとより住宅は、寝て起きて食べて寛ぐという人が生まれてから死ぬまでの生活を内包しており、基本的な機能として、風呂・トイレ・台所などある程度固定された諸室も求められる。しかしながら、ただ機能を満たし、諸室を並べただけでは評価

はされず、このコンテストでも同様に新しい提案が求められる。学生にとって、初めての設計行為に近い課題にも関わらず、多様なアイデアを捻出し、ひとつの住まいとして提案された作品はどれも新鮮である。一方でまとまりきらずアイデアだけに留まっているもの、まだ見ぬ「空間」を想像させる多くの佳作が毎年のように輩出され、今回で4回目を迎えた。

提出される図面だけではなく、模型、プレゼンテーションなど審査会場だからこそ味わえる、リアルな緊張感の中で見て学び、体得できる自由な発想が連なり、年を追うごとに積層されていく中で、このコンテストの様相が見えてきたように思う。設計課題をそつなくこなすことも重要なことに間違いはないし、一見奇抜に思えるアイデアだけが何故評価されるのかと疑念を抱いている学生も少なくない。審査員も我々もちろんそんなこ

とは百も承知しているし、そういった作品の中に、学生がまだ気づいていない面白いことを発見させるきっかけを作っているのであって、そこにこのコンテストの大きな意義がある。ただ回を重ねるだけでなく、より多くの価値が創造されるコンテストとして飛躍できるよう、まだ見ぬ「空間」を楽しみにしながら実行委員として今後も尽力していこうと思う。



橋口新一郎(建築表彰部門 担当理事)



建築相談室から(92) 分譲マンション第三者管理を考える 1

橋本頼幸(建築相談委員会幹事)

今回は少し趣向を変えて、面接相談記録をきっかけに分譲マンション第三者管理について考えてみたいと思います。

第三者管理の組合員は当事者になれるのかマンションの地下ピットに湧水があり、悪臭がする。地下ピットの下は土で土間コンクリートはない。管理会社は水中ポンプで排水を行った。分譲主は無償でポンプを設置すると言っている。分譲マンションではあるが、管理会社が第三者管理を行う形式で当初から分譲されており、区分所有者で構成する「管理組合」はない。マンションに集会室はなく、理事会は大阪市内の管理会社の会議室で行われている。築2年でわかった問題ではあるがピットの湧水以外に不具合がないか心配している。管理会社は建設会社とつながっており信用できない。加えて、管理会社が図面の持ち出しやコピーをさせてくれない。

そもそも第三者管理とは管理組合が管理者業務をマンション管理士や管理会社などの第三者に委託する方式をさします。これは、2016年に国交省の標準管理規約の見直しの際に、所有者以外の外部専門家を管理者として選任することができるように追加されたことで注目されるようになりました。一般的に分譲マンションでは、区分所有者で構成する管理組合が組織され、管理組合の中から選出された役員(理事会)がマンション管理を中心に担います。管理会社は管理組合業務を一部委託されるという契約になります。従って管理会社が主体的に動くことはありません。ところが第三者管理方式は、管理組合理事会の役員や理事長などを第三者の外部専門家が担うことができるようになり、主体性を持った運営ができるようになります。

第三者管理のスタイル

主に以下の3パターンがあります。

1. 理事会あり／「管理者＝理事長」
(第三者が管理者兼理事長に就任)
2. 理事会あり／「管理者≠理事長」
(第三者が管理者に就任／区分所有者の理事長は管理者ではない)
3. 理事会なし／「管理者＝理事長」
(第三者が管理者に就任／理事長なし)

第三者管理の問題

一見そのスタイルは、区分所有者の理事会役員の負担を軽減させますし、高齢化や多忙による理事のなり手不足を解消する解決策にもなります。しかし、本来管理業務委託を受けていた管理会社が第三者管理のメンバーになってしまうと利益相反することになり、分譲マンションが管理会社の実質的な支配下になってしまう恐れもあります。来月はこの問題を掘り下げていきます。

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

(業務内容)

耐震診断報告書や耐震補強計画書の審査、評価等

(対象建築物)

公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)

申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料が10%割引となります。

令和6年度 建築士定期講習

3/27 CPD6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和3年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼DVD講義

日程・会場・定員

3/27 (木) 大阪府建築健保会館 90名
運営：大阪府建築士事務所協会

注) 定員に達し次第、受付を終了します。

時間 9:15～17:00

受講料 12,980円(消費税含。事前入金)

申込 下記URLよりお申込みください。

インターネット申込みができない方は、大阪府建築士会HPの定期講習の案内をご確認ください。

https://www.jaeic.or.jp/gyomu/off_teiki/index.html

令和6年度監理技術者講習

3/7 CPD6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講ください。

日時 3/7(金) 8:55～17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(申込先着順)

受講料 WEB申込み9,500円

郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会HPより

<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

既存住宅状況調査技術者講習

更新講習3/12 CPD2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみ認められる業務です。令和3年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限のため更新講習をご受講ください。

日時 3/12(水)

13:30～17:00(DVD講習)

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(申込先着順)

受講料 WEB申込17,000円

郵送申込17,600円

申込 日本建築士会連合会HPより

<https://www.kenchikushikai.or.jp/koshukai/kizonjyutakujyokyocho.html>

建築相談委員の新規・更新スキルアップセミナー

3/15 CPD2単位(予定)

建築相談を新規にやってみようと言う方や、既に建築相談委員の方々に、建築相談委員としての注意点や基礎知識を学んでいただく勉強会を開催します。建築相談は、孤独な活動になりがちですが、このような機会に、

相談委員同士顔を合わせデスカッションする中で、スキルアップ出来ればと思います。

日程 3/15(土) 15:00～17:45

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(申込先着順)

受講料 無料

申込 右記QRコードより



神戸ポートミュージアム アトア 設計・施工説明会

一大地と水の建築「隆起する大地と浸食する水」
2/28 CPD3単位(予定)

神戸のウォーターフロントエリアに位置するアクアリウムを核とする複合文化施設に関して、意匠・構造・設備・エンジニア(水族館技術部門)・施工の5分野の設計者が講師となり、水族館設計をトータルに解説していただける貴重な機会ですので奮ってご参加ください。

日時 2/28(金) 14:00～17:00

集合受付13:30(時間厳守)

会場 大阪府建築健保会館 6階ホール

定員 90名(申込先着順)

受講料 建築士会会員:2,500円

後援団体会員:3,500円

一般:4,500円

阿倍野区昭和町界隈に学ぶ

～国登録有形文化財「寺西家阿倍野長屋」及び町家の活用と展望について～

3/7 CPD3単位

大正から昭和にかけて、大阪市の経済発展とともに急増する人口に対応すべく、町割り高密度高く長屋を建築することを前提とした寸法で計画され、日本で先駆けて土地区画整理事業が行われた地区である。戦火の被害が少なかった昭和町界隈には、時代の変化に応じながら現在も多くの長屋が残されている。昭和100年となる2025年の今、近代長屋として全国初の国登録有形文化財となる「寺西家阿倍野長屋」と昭和町界隈のまちなみを通して、町家の活用と展望について学び考えます。

日時 3/7(金) 13:00～17:00

会場 寺西家住宅(国登録有形文化財)

定員 30名(申込先着順)



Informationの詳細及び申込みは大阪府建築士会ホームページに掲載しています。
<http://www.aba-osakafu.or.jp/> メール info@aba-osakafu.or.jp
 TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

受講料 2,000円

主催：(公社)兵庫県建築士会

共催：(公社)大阪府建築士会

令和6年度文化庁文化芸術振興費補助金
 まち歩きとシンポジウム
 『歴史を知る、歴史的建造物にふれる、
 まち歩きを楽しむ』

3/8

日程 3/8(土)

まち歩き(大阪市内) 10:00~12:00 予定

参加費 2,000円

定員 各回15名

A: 住吉大社めぐり: 住吉区

集合 住吉大社反橋前

B: 阪南町の長屋・町家めぐり: 阿倍野区

集合 大阪メトロ西田辺駅改札

C: 太子・山王まち歩き: 西成区

集合 大阪メトロ動物園前駅改札

シンポジウム 13:30~16:30

参加費 1,000円

定員 100名

会場 南大阪教会

今さら聞けないシリーズ(設備の維持管理編)
 テクニカルセンター(メンテナンス技術研修センター)
 昇降機のメンテナンス・実機 見学講習会

3/10 CPD2単位

本企画は建築士、設計者として知っておきたいメンテナンスの種類、必要性、法規等の講習会です。

当日はスケルトン昇降路により通常では見ることのできない部分も見学し学んで頂けます。更に進化した小荷物専用昇降機のIoT連携についての説明もございます。皆様のご参加をお待ちしております。

日時 3/10(月) 13:30~16:00

会場 クマリフト(株)R&Dセンター及び
 テクニカルセンター

協力・講師 クマリフト(株)

テクニカルセンター技術員

定員 24名(申込先着順)

受講料 建築士会会員1,000円

一般2,000円

TOSAZAI ツアー 2025

4/22~23 CPD5単位(予定)

高知・梶原の土佐材産地セミナー、産地見学
 ツアーを企画いたしました。

高知市にて内藤廣氏設計(土佐材を使った大スパン建築物)の牧野富太郎植物園・記念館、龍馬木材市場などを見学、梶原町に移動し隈研吾氏設計の雲の上ホテル別館に宿泊し、翌日は梶原町森林組合にて土佐材の研修、製材を見学し、梶原町の隈研吾氏設計建築物群(土佐材を使った大スパン建築物)他を見学します。

行程 4/22(火) 7:30新大阪駅集合

新大阪→高知市→高知県梶原町

4/23(水) 高知県梶原町→新大阪

19:00新大阪駅解散(予定)

対象 土佐材を使ってくださる建築関係の方
 土佐材の流通拡大に携わってくださる方
 対象の方が随伴される施主

定員 20名(申込先着順)

受講料 建築士会会員50,000円

一般55,000円

その他のお知らせ

にほんのあらたな てしごと
 橋口新一郎展

—古代の敷葉、現代の茶室—

12/17~2/16

大阪府生まれの建築家・橋口新一郎によるアートインスタレーション作品の展示です。日本の伝統的な技術や感性に着目し、次々と茶室を発表。国内外で高い評価を得ています。代表作「織物の茶室|霞庵」と、狭山池の飛鳥時代~奈良時代の堤に使われている古代の土木技術「敷葉工法」から着想を得た作品を展示します。

日程 12/17(火)~2/16(日)

会場 大阪府立狭山池博物館

<https://sayamaikehaku.osakasayama.osaka.jp/>

開設者・管理建築士のための建築士
 事務所の管理研修会

2/6

本研修会は、建築士事務所の管理・運営を適切に進める上で把握しておくべき重要事項を網羅した内容となっており、5年ごとの事務所登録の更新の機会に合わせて受講する(任意)ことで、資質の維持向上を図り、業務委託者の期待に応えるべく業務の適正化や建築物の質の向上等を目的としています。

日時 2/6(木) 10:00~16:30

会場 大阪建築健保会館6階ホール

定員 90名

受講対象 建築士事務所の開設者及び管理
 建築士

受講料 会員8,800円

後援団体会員13,200円

一般15,400円

申込 一般社団法人大阪府建築士事務所協会

<https://forms.gle/U5wyLMqU4t3A2u5p6>

「建築人」Gallery掲載作品の募集

本誌「建築人」は毎月約3,000部を発行し、本会会員をはじめ官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。Gallery掲載作品は「建築人賞」の候補となります。

●掲載記事 1頁カラー、写真4点程度

●掲載費用 100,000円

※1 初回割引80,000円(設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

※2 若手初回割引50,000円(40歳以下かつ建築設計事務所を主宰され※1を満たす方)

●詳細・申込 事務局担当: 母倉

e-mail: info@aba-osakafu.or.jp

TEL: 06-6947-1961

建築相談委員会 マンション維持管理支援部会の紹介



建築相談委員会 委員長 藤江雅文

社会貢献部門業務支援の建築相談委員会マンション維持管理支援委員会は、行政への業務支援として、マンション管理組合等が抱える諸問題や相談等に対応アドバイスを行っている委員会です。

◆活動内容等

当部会より専門家のアドバイザー派遣をマンション管理組合等へ行っており、長期修繕計画書作成のアドバイス等を定期的に行っております。

そのために部会に所属する建築士が、的確に対応できるよう毎月事例に基づく勉強会を実施しています。マンション専門家や今後業務の幅を広げたいと考える建築士が集まり、マンションの診断や改修に関する取り組みとして、ディテールマニュアル、技術指針等の作成など技術向上をしています。

今後は、広く建築士に向けて情報を発信する為、マンション維持管理技術者を育成するセミナーを開催致します。

資産としての建物を良好な状態で保全し、快適で住みやすい環境を維持するためには、計画性をもって適切な時期に適切な内容の修繕・改善が必要です。

また大規模修繕工事は、資産価値の保全や建物の長期健全状態の保持という観点で、



美粧だけが目的の塗装替えだけではなく建物の耐久性向上に取り組む大事業であることを解説しています。

建築士としてどのようにかわれば良いか、技術者資質向上、また今後取り組んでいこうと考えている建築士のための勉強会の企画を行っています。

◆アドバイザー派遣等

マンションに関する大阪府協議会、大阪市支援機構、各行政庁の依頼により管理組合などに長期修繕計画などのアドバイザーとして本会推薦の建築士を派遣しています。

◆技術者資質向上の勉強会

- ・マンションコンサルタントの概要、受注まで
- ・コンサルタント費用の見積
- ・特殊建築物定期報告の概要
- ・修繕設計の概要
- ・劣化診断調査の概要
- ・長期修繕計画の概要

以上、その他随時、社会情勢に適合した内容で勉強会を実施しています。

◆大阪府マンション管理士会他

4団体での共催セミナー

毎年、テーマを設定して分譲マンション管理組合に向け管理セミナーを3月に行っています。大阪弁護士会、住宅金融支援機構などの共催により、分譲マンションの法律の見解など多岐にわたる内容となっています。

◆受託業務支援

建築相談委員会の電話相談などで本会へマンションに関する内容での相談等の問い合わせがあれば、当部会よりマンション管理組合へ専門技術者の紹介を行います。また、必要に応じて業務を遂行していただく場合があります。

以上のようなマンションに特化した部会となっています。業務として今後取り入れていきたい。もしくは、現在すでに携わっているなど関心のある方は毎月部会を行っていますので、ぜひ本会にお問い合わせください。

連絡先：06-6947-1961（大阪府建築士会事務局まで）

地域まちづくり委員会 北摂・みしま野の紹介

地域まちづくり委員会 北摂地域 代表幹事 宮田 哲
みしま野地域 幹事 神保 勲

◆北摂

地域まちづくり委員会は12の地域会で構成されています。その中で北摂地域会は、池田市、吹田市、豊中市、箕面市、能勢町、豊能町の6市町に居住、或いは就労しているメンバーで構成されています。

北摂は大阪市北と合同で2023年11月25日、26日と1泊2日で愛知県緑化センターの見学に行きました。1日目の緑化センターは、1975年設計:瀧光夫、造園:中村一の設計により緑化全般にわたる機能をもった施設として、県政100周年を記念して建設され、1976年に開園しました。家庭や職場の緑化に役立てていただくため各種の展示施設を設けるとともに、緑化の相談や研修、各種教室などを行い、知識や技術の普及に努めています。その後、井上公園内にあるラチスシェル構造と複層ガラスによって構成された室内プールに立ち寄り、美術館設計で有名な谷口吉生氏設計の豊田市美術館に行きました。1995年にグリッドで構成された自然光が美しい美術館です。庭園はアメリカのランドスケープ・アーキテクトであるピーター・ウォーカーによるものです。谷口氏の手による美術館は、ただ単に美術作品を展示するだけでなく、収集方針や運営理念を最良かつ繊細な仕方で形にし、この土地ならではの特性を建物に与えている。建築と自然双方の美しさが際立つ丘の上に、その高低差を活かして建てられているということです。

2日目は、東山動植物園の温室を見学しました。植物園の温室には、1937年の開園当初から公開している「前館」と1960年以降に順次開設した「後館」と呼んでいる部分があり、熱帯・亜熱帯性気候に生育する美しい花や、

奇妙な葉など、様々な姿の植物を見ることが出来ます。「東洋一の水晶宮」と呼ばれた美しい佇まいと、多様な温室植物との調和のとれた姿が素晴らしい。その後、名古屋市熱田区にある白鳥庭園に行きました。池泉回遊式庭園で中部地方の地形をモチーフに、築山を「御嶽山」、そこからの流れを「木曾川」、流れの水が注ぎ込む池を「伊勢湾」に見立てて、源流から大海までの「水野物語」をテーマにした市内唯一の規模を誇る日本庭園です。



今年は10月12日、徳島県鳴門市に行きました。鳴門市には、1961年から1981年の20年間に、京都大学名誉教授の増田友也氏が設計した建築物が、市庁舎をはじめとして教育施設等の公共施設が19棟近くある。現在もそれらは残っておりモダニズム建築として評価が高いものです。その中で現存しているものを選びすぐって見学に行きました。増田友也氏は、大学で教鞭をとりながら、設計業務を行う建築家であり、かつ建築論の研究者としてもその名を知られています。増田友也氏の建築としては鉄筋コンクリート造や鉄骨コンクリート造として、構造を意匠に取り込んだ大胆な空間演出しています。このような活動をしています。皆さんも参加してみませんか。



◆みしま野

建築士の会「みしま野」は地域まちづくり委員会の傘下であり、高槻市、茨木市、摂津市、島本町に在住、在勤している大阪府建築士会の正会員にて構成されていますが、現在「みしま野」は休眠状態になっております。「みしま野」の母体を作り上げた諸先輩方が建築士会から退会してしまい、若い世代の会員を「みしま野」の後継者として育てなかったからです。一方で、応急危険度判定士のメンバーや木造住宅等の既存住宅状況調査技術者や耐震診断技術者のメンバーに「みしま野」に所属する会員が大勢居ることも忘れてはいけません。



最近では茨木市や高槻市を中心に新しい建物が建てられてきています。茨木市の「おにクル」高槻市の「関西将棋会館」など、どちらも話題性には事欠きません。「おにクル」では研修委員会が2回新築現場見学会を開催し、「みしま野」も共催という形で参画しました。今後は違った角度から「みしま野」の良いところを見出して見学会などの企画を提供していきたいと思います。心あるメンバーの応援と助力をお願いするものであります。





新森雄大 Yudai Niimori

特集「建築人に訊く」は、建築に関わる人「建築人」に未来の建築について語っていただきます。建築そのものだけでなく、「人」に焦点を当てることで、多角的な視点や新規性も踏まえた幅広いテーマについてお話を伺います。

社会全体が目まぐるしく変化するにおいて、建築界も常に進化を求められています。建築はデザイン、テクノロジー、人間哲学、ライフスタイルなど様々な職域をまたいで成立すると考えられます。建築の未来を見通すためには、順応性を高めるために広い視野を持つと同時に、未来に繋がる上で重要なポイントにフォーカスする目線が必要であると考えます。

様々な「建築人」の視点を垣間見ること、建築界全体の未来への一歩へ繋がることを期待しています。

第三回は新森雄大氏にインタビューを行いました。新森氏はジェームス・ジャミソン氏と共に建築設計事務所 Niimori Jamisonを主宰されています。日本国内のみならず、オーストラリアをはじめとする海外においても活躍されている、新進気鋭の建築家です。

近年では、Schenk Hattoriと共同で2025年大阪・関西万博の「休憩所4」の設計もご担当されています。このインタビューでは「休憩所4」のお話を中心に、近作についても語っていただきました。

インタビューは京都市左京区にある新森氏のアトリエで行われ、普段お仕事をされている環境や、設計思想まで幅広くご紹介いただきました。

略歴

一級建築士、博士(美術)

- 1986年 徳島県生まれ
- 2012年 滋賀県立大学大学院
人間文化科学研究科 修了
- 2014年 スイス・イタリア大学大学院
メンドリジオ建築アカデミー 修了
- 2018年 Niimori Jamison 設立
- 2019年- 名古屋造形大学 非常勤講師
- 2022年- 京都芸術大学 非常勤講師
- 2023年- 京都市立芸術大学 非常勤講師

主な受賞

- 2024年 City of Ballarat Continuous
Voices Memorial Shortlist
- 2022年 2025年日本国際博覧会
休憩所他設計業務公募型プロポーザル
優秀提案者

「本日は新森さんのアトリエにてインタビューをさせていただきます。このアトリエはどのように使われているのですか。」

今年の3月から京都市左京区の長屋を借りて、新しい拠点としています。1階を打合せスペース、2階をアトリエとしています。元々1階はカフェ、2階は住居として使われていたため、1階には大きなキッチンが残されており、今でも友人がたまに訪れて焼き菓子を作っていることもあります。築年数としてはかなり経っているので、古くなっている部分は自分の手で徐々に改修しながら使っています。

「設計される際はどのように想像力を掻き立てているのでしょうか。」

アトリエにはたくさんの書籍、模型、道具があります。滋賀県立大学在学中は道具学を専攻していたこともあり、今でも道具を集めるのが好きで、建材のサンプルだけではなく、直接は建築に関係のないものまで、ありとあらゆるものを置いています。また、基本的には一人で作業をしており、模型の多くも今は自分の手で作っています。物の手触りやスケール感も重視しているので、どちらか片方ではなく、ディテールと全体、双方から同時に建築を見つめることで、設計の密度を上げています。プロジェクトによっては3Dモデルを用いた検討も行いますが、所々納まっていない部分が出てしまい、現場での調整が困難になるため、初期段階ではめったに使用しません。スケッチや模型から検討を始めることが多く、特に模型に関しては、どのようなプロジェクトであっても必ず作るようにしています。

「現在進行中のプロジェクトは何件程度あるのでしょうか。」

国内に10件、オーストラリアに5件、その他に数件あるので、合計15~20件程度です。プロジェクトの規模としては様々で、小さいものだとヴェネツィアで行われる芸術祭のための、3㎡程のパピリオンを設計していますが、基本的には住宅に近いスケールのものがほとんどです。新築プロジェクトだけではなく、「Church House」のようなコンバージョンもあります。先ほどの通り、物の手触りのような小さな部分にも思考を巡らせることを意識しているため、巨大なプロジェクトというよりは、ディテールまでしっかりと建築を考えられるようなスケールのプロジェクトが多いと思います。

事務所はジャミソンと共同主宰しているので、週に数回リモート会議を行うことで連携しています。どちらかが主導していくのではなく、お互いに提案を出し合っ、議論を重ねながら設計を進めています。ただし、プロジェクトの条件によってはそれぞれ別で設計を進め



アトリエの様子。中央には模型製作スペースがある



1階に置かれた「Church House」の模型(写真手前)



作業スペース周辺に置かれた多数の道具と書籍

ることもあります。

「単体で進められているプロジェクトはどのようなものがあるのでしょうか。」

近作では、カヌレ堂桜川本店のプロジェクトがあります。設計工期が短いため、単体で進めているプロジェクトです。元々、カヌレ堂は好きなお店でよく通っていたのですが、ある日呑み屋さんでたまたまお話した方がカヌレ堂の社長さんで、その際に名刺を交換したことがこのプロジェクトを始めるきっかけとなりました。驚きの出会いでした。

現在の桜川本店の裏側にある既存建物を新店舗に改修する計画です。既存建物はタイル張りで、マットな仕上げになっていますが、表面のひび割れに汚れが固着してきているので、それらを一度洗い流し、艶のある防汚塗装を施します。新たに張るタイルは、塗装を施した既存タイルの濡れた状態に合わせるよう、水野製陶園さんにご協力いただき実験を重ねています。改修設計をする際は、既存のイメージを大きく変えることのない、密やかな手つきで行うことが多いです。

店舗の前には建物と一体でベンチや植栽を設け、街に対して人の居場所も提供できるような設計となっています。



模型(カヌレ堂桜川本店)



タイルサンプル(カヌレ堂桜川本店) ©水野製陶園

ー2025年大阪・関西万博の「休憩所4」についてお聞きしたいと思います。まずは、設計プロポーザルへの応募の経緯をお聞かせください。

まず、服部さんとの出会いからお話します。服部さんもメンドリジオ建築アカデミー出身で、私が入学する時点では既に卒業されていたのですが、まだヨーロッパに滞在されていました。メンドリジオ建築アカデミーの授業は主にイタリア語で行われるため、入学前にイタリア語を学習するの必要がありました。その時に、服部さんから語学学習を兼ねたイタリア旅行に誘われたことが、今後の関係を深める大きなきっかけでした。大阪に拠点を置き、幼少期を大阪で過ごした身としては応募したい気持ちが強かったのですが、万博のプロポーザルが開示された時点で、私は大阪で設計事務所を開設したばかりだったので、応募要件を満たすためには他の事務所とJVを組む必要がありました。そこで、建築的な感覚や経験が共有できる服部さんに対して、私の方から共同設計をお願いしました。また、同プロジェクトにおいて構造家の柳室純さんとも協働していますが、柳室さんも過去に1年間メンドリジオで学ばれていました。

ープロポーザル時点の設計案と当選後の設計で変更された点がありますか。

設計要件として浮き基礎が求められていたので、地面を掘る必要がありました。それならばとまずは地面の掘り方から考え始め、併せてどのようにすれば建物全体を軽く作れるのかを考えるようになりました。フラットな地面に対し、山と谷が千鳥配置になるように掘ることで、凸凹した曲面が形成されます。凸凹した地面を屋根面の型枠として利用し、地面に対して膜を張っていくように屋根面を形成します。その屋根面を持ち上げて、平面上90度回転させることで、山と谷が逆転し、地面と屋根面の間に隙間が生まれます。その隙間を休憩できる空間として位置付けようというアイデアにたどり着きました。この幾何学的なダイアグラムは服部さんのアイデアが発端となっています。服部さんは私と異なり、ファサード、グリッドといった図式的な構成を大切にしているので、お互いの特性がうまく噛み合うことにより、共通のゴールに到達することができたと思います。



イメージパース (休憩所4)

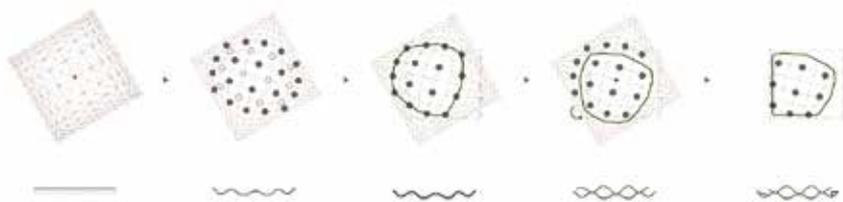
屋根材としては、建物を軽くするという点と、曲面への追従性が高いという点で、紙を使うのが最初のアイデアでした。しかし、あらゆる製紙会社に相談しましたが、どこからも実現を示唆するポジティブな回答は得られませんでした。また、紙は建材として法律上認められていないため、大臣認定を所得する必要もあり、スケジュールを含め、紙で製作するのは困難であるという判断に至りました。よって、方針を転換し、鉄筋でメッシュ状の曲面を作ることにしました。鉄筋を使うというのは柳室さんのアイデアでしたが、3次元シェル構造の解析実績はなかったため、名古屋市立大学の木村俊明准教授にも協力をいただき、設計を進めることになりました。

ー施工はどのように進められたのでしょうか。

設計時点では全体を一気に吊り上げる想定でしたが、施工上の制限により、4分割して順番に作っていくように変更しました。それ以外は、想定した通りのプロセスで進めることができました。ダイアグラムと同じように、凸凹した地面を型として鉄筋をメッシュ状に編み、それをクレーンで持ち上げて回転させ、設置するという流れです。

ー施工段階で特に苦勞された点があれば教えてください。

レベル出しを如何に正確に行うか、精度を上げるためには施工者とも議論を重ねました。特に4分割した曲面同士を接合するため、少しでもずれてしまうと全体の形状が成り立たなくなってしまう。施工の元請は加登脇建設なのですが、鉄筋工事についてはアムロンが担当しました。アムロンは藤本壮介さん設計の直島パヴィリオンを施工された会社で、多面体のような複雑な形状の施工実績もありますが、今回はより複雑な三次元曲面であるため、早い段階からアムロンの工場で作成したモックアップを製作し、接合部の納まり検討や構造実験



配置ダイアグラム (休憩所4)

などを行いました。元々は鉄筋同士を番線で結合する想定だったのですが、番線は塗装を施したとしても錆びやすく、雨で錆汁が来館者に付着しては問題になってしまうため、接合部は溶接で行うことにしました。

—万博会期後のリユースやリサイクルについてはどのような想定になっていますか。

屋根面で使用する鉄筋は、2m角のワイヤーメッシュとして再利用可能な計画になっています。大きな曲面から抽出するため、ほぼ平面形状のメッシュとなります。

—屋根面には仕上げはされるのでしょうか。

一部に藤を絡めます。屋根面と地面の接合部に植え、メッシュを這うように育っていくことで、日影が作られます。休憩所という用途上、雨除けが必要でしたので、膜材を張ることなど色々と検討したのですが、屋根に対してノイズになるものは避けたかったのと、静けさの森に隣接していることから自然物を選びたくて、藤を採用することにしました。

—休憩所の機能として、座ることができるような家具は置かれるのでしょうか。

アルミ製の長いベンチが置かれます。そのベンチは甲斐さん(studio archè)とコラボレーションしています。また、会場施設の中で唯一、祈祷室が設けられるのですが、そこにはまた別のイスが置かれます。このイスはユニオンと共同開発しました。土台部分はFRPで作るのですが、そもそもFRPには型が必要です。その型自体を脱型した後、土台に乗せて、座面と肘掛けとすることで、通常は廃棄されるはずの型も含めてイスとして使うことを計画しています。

—建築本体だけでなく、家具も含めて、物の成り立ちから考えられているのですね。

私も服部さんも、建築がつくられるプロセスそのものにも異を唱えたいという想いがありました。例えば、通常の建築であれば型枠を



祈祷室に置かれるイスのモックアップ(休憩所4)

作ってコンクリートを流し込みますが、そもそも型枠のない作り方ができないか、という観点です。そういった考え方が、地面を型枠として使うようなプロセスに繋がり、型枠が不要になることで、環境負荷も軽減できます。型枠を使わないプロセスは、今後別のプロジェクトにも応用できるのではと希望を抱いています。

—物の成り立ちを重視するようになったきっかけがあるのでしょうか。

幼い頃から、自ら作ってみたり、まずは身体に落とし込まないと納得できないという性格でした。物の成り立ちをきちんと理解できないと、実際に作ったと感じられないのです。先ほど述べたように、建築をディテールや小さい部分から考えるというのは、この性質に通じているのだと思います。小さな部分と、建設的な大きな部分の双方から考えて、その結節点に建築があるような考え方をしているのも、これ

に繋がっているのだと思います。例えば、谷口吉生さんは素材のモジュールから最終的な部屋の大きさを決めていきます。建築の計画学的な寸法から決めるというよりは、物の寸法から建築のスケールを決めていくという意味では、作法として近いかもしれません。

—休憩所4の設計を通じて、未来の建築について考えることがあったと思いますが、今後の建築において何が重要とお考えですか。

今までの建築及び建設の歴史において、連続と受け継がれてきたメソッドがあると思いますが、まずはそれらを疑う必要があると思っています。従来通りの手法に沿うだけでは、時代は更新されません。それが本当に必要なものかどうか、今の時代を通してもう一度考え直していかないと、建築は進歩しません。例えば、休憩所4で実践した型枠のない建築の施工プロセスもそうですし、他で言えば、松山の住宅プロジェクトでも、同じ意識で設計しました。土を抑えている擁壁を地中梁と兼用し、通常は必要となる土台や基礎梁を無くします。柱は擁壁に対して内側に抱かせ、建物全体としての構造フレームを、土を抑えている擁壁、柱、ずれた梁のみで形成します。それによって、上部に必要な間柱や筋交など、他の構造部材を大きく減らすことに成功しています。従来の建築の作り方とは違う観点からのアプローチによって生まれたアイデアです。この意識は、今後もプロジェクトの大小に関わらず、持ち続けていきたいです。



キッチンのイメージバス(松山の住宅)

聞き手 松下典央 武藤優哉

温かさ湛え新生した海員たちの活動拠点

全日本海員組合本部会館 一九六四年竣工／二〇二四年改修

文・写真 松隈 洋「神奈川大学建築学学部教授」

二〇二四年も押し迫った十二月七日、二〇二二年一月に着工し、二年十カ月の工期を経て改修工を終えた東京六本木の全日本海員組合本部会館の竣工を記念する見学会と演奏会、関係者による式典が開かれ、四〇〇名を超える参加者があった。この建物は、一九六四年に同組合の本部が神戸から東京へ移転するに伴い、「組合員の団結の象徴」として建設され、設計は前川國男の下から独立した直後の大高正人が手がけた。また、今

回の改修設計に携わったのは、大高に師事した野沢正光である。改修された会館は、竣工から六〇年という時間の経過を一気に飛び越して、新しく誕生したとさえ思えるような、温かさを湛えた清廉な雰囲気の間へと深化し、参加者を驚かせ、感動を与えていた。

全日本海員組合は、前身となる一九二一年に結成された日本海員組合から一〇〇年を超える歴史を持ち、戦時下の一九四〇年の解散を挟んで、



南側外観詳細。
プレキャスト部材によるシャープな立面構成



地下大会議室。
最前列に田中伸一組合長代行（右）と増山敏夫

敗戦直後の一九四五年十月、海運業と水産業に携わるすべての船員と労働者により再結成された日本で唯一の産業別単一労働組合である。近年の船員の国際化により、現在の組合員は日本人約三万人、外国人約五万人を数える。だが、その歩みには、一九八六年に太平洋戦争下の「船員受難の姿を記録し反省する使命と責任」からまとめられた『海なお深く太平洋戦争船員の体験手記』に記されたように、第二次世界大戦中に多くの民間船と船員が国に強制的に徴用されて、武器を持たず、護衛もな

らな形で再生されると予想できた人は少なかつたに違いない。というのも、今回の改修計画の実現には、奇遇と言える絶妙なタイミングでの運命的な出会いの連鎖があったからだ。それは、大高の建築が持っていた構造的、機能的バランスの良さに支えられていただけでなく、船員という職能の持つ独特な文化的気質が功を奏した結果なのだと思う。筆者は、遠くから見守ってきたに過ぎないが、ここでは、海員組合と大高正人をめぐる一期一会の小史を書き留めておきたい。

敗戦直後の一九四五年十月、海運業と水産業に携わるすべての船員と労働者により再結成された日本で唯一の産業別単一労働組合である。近年の船員の国際化により、現在の組合員は日本人約三万人、外国人約五万人を数える。だが、その歩みには、一九八六年に太平洋戦争下の「船員受難の姿を記録し反省する使命と責任」からまとめられた『海なお深く太平洋戦争船員の体験手記』に記されたように、第二次世界大戦中に多くの民間船と船員が国に強制的に徴用されて、武器を持たず、護衛もな

敗戦直後の一九四五年十月、海運業と水産業に携わるすべての船員と労働者により再結成された日本で唯一の産業別単一労働組合である。近年の船員の国際化により、現在の組合員は日本人約三万人、外国人約五万人を数える。だが、その歩みには、一九八六年に太平洋戦争下の「船員受難の姿を記録し反省する使命と責任」からまとめられた『海なお深く太平洋戦争船員の体験手記』に記されたように、第二次世界大戦中に多くの民間船と船員が国に強制的に徴用されて、武器を持たず、護衛もな

敗戦直後の一九四五年十月、海運業と水産業に携わるすべての船員と労働者により再結成された日本で唯一の産業別単一労働組合である。近年の船員の国際化により、現在の組合員は日本人約三万人、外国人約五万人を数える。だが、その歩みには、一九八六年に太平洋戦争下の「船員受難の姿を記録し反省する使命と責任」からまとめられた『海なお深く太平洋戦争船員の体験手記』に記されたように、第二次世界大戦中に多くの民間船と船員が国に強制的に徴用されて、武器を持たず、護衛もな

敗戦直後の一九四五年十月、海運業と水産業に携わるすべての船員と労働者により再結成された日本で唯一の産業別単一労働組合である。近年の船員の国際化により、現在の組合員は日本人約三万人、外国人約五万人を数える。だが、その歩みには、一九八六年に太平洋戦争下の「船員受難の姿を記録し反省する使命と責任」からまとめられた『海なお深く太平洋戦争船員の体験手記』に記されたように、第二次世界大戦中に多くの民間船と船員が国に強制的に徴用されて、武器を持たず、護衛もな

水の喜びを、 次の時代にも。

人と水とのよりよい関係に、
環境との調和は欠かせません。
SANEIでは心地よく使える
プロダクトの開発をはじめ、
環境負荷を抑えた
ものづくりを行っています。
またSDGsの目標に対応し、
生産から働き方まで、
この時代だけでなく、
次の時代にも水の喜びを引き継ぐ
行動に日々取り組んでいます。

ALWAYS WITH JOY
SANEI





中庭の緑と太陽光を屋内にたっぷり取り込み、2階のDENと1階のほど良いつながりを生み出すリビングの吹き抜け。



縦に広がる吹き抜けに対して、落ち着いたある横の広がりを用意したダイニング・キッチン。正面奥の本棚は吹き抜け一面に広がる。